

館林市総合計画審議会 第3回全体会及び講演会 議事録【概要】

日時

令和2年2月21日（金）

- ・全体会：午後2時から午後2時50分まで
- ・講演会：午後3時から午後4時50分まで

場所

- ・全体会：館林市文化会館 会館棟2階 3号室
- ・講演会：館林市文化会館 会館棟2階 小ホール

出席者

- ・全体会

【審議会委員】35名

井田繁美委員 亀山みち子委員 齊藤のぶ江委員 葉坂喜美子委員 中嶋直一委員
服部覚委員 吉澤秀明委員 遠藤重吉委員 平井玲子委員 岩崎裕一委員 加山弾委員
田沼昇委員 中村美子委員 藤倉功也委員 真中千明委員 宮原祐一郎委員 斉藤貢一委員
権田昌弘委員 石川京子委員 関口百合子委員 曾原幸子委員 角田好二委員
野村和利委員 平林恵美委員 森静子委員 渋谷理津子委員 荒川博人委員
石井雅子委員 市川顕委員 佐藤聡委員 蓼沼直治委員 中村喬委員 三田英彦委員
櫻井正廣委員 川村幸人委員

【策定委員会委員】10名

市長 副市長 教育長 市民環境部長 保健福祉部長 経済部長 議会事務局長 教育次長
秘書課長 医療事務組合事務局長

【策定事務局参事】（専門部会正副部長のみ）10名

安全安心課長 地球環境課長 社会福祉課長 健康推進課長 生涯学習課長 こども福祉課長
産業政策課長 都市計画課長 行政課長 市民協働課長

【事務局】7名

政策企画部長 企画課長 政策推進係長 政策推進係職員4名

- ・講演会

【審議会委員】 35名 ※上記同様

【市議会議員】 6名

【策定委員会委員】 10名 ※上記同様

【策定事務局参事】 42名

【その他来賓】 2名

1 会議内容 【PDF：次第】

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

館林市総合計画審議会 第3回全体会を開催するにあたりまして、ひと言ごあいさつを申し上げます。

昨年11月に総合計画審議会委員の委嘱を受けてから、早いもので3か月が過ぎようとしております。これまでに会議として、審議会委員全体での全体会と、各分野に分かれての部会を行ってまいりました。

本格的な審議につきましてはこれからとなりますが、事務局の示す案に対して、委員の皆様、それぞれの専門分野からのご意見や、普段の生活の中で感じていることなど、市民の目線で、様々な角度から審議を行っていきたいと思います。

本日の会議では、将来都市像（案）と基本目的（案）についての審議がございます。円滑な審議の進行へのご協力をお願いしまして、ごあいさつとさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

(3) 審議会委員自己紹介【PDF：第六次総合計画審議会委員名簿】

(4) 議事

① 将来都市像（案）について

事務局より、「将来都市像（案）」（資料1-1）について説明しました。

（委員からの意見・質問）

- ・資料1-1の3行目に「今後もより一層の水防災意識社会づくり、大規模地震等に対する強靱なまちづくりが求められます」とありますが、この「水防災意識社会づくり」は市民の意識改革を言っているのでしょうか。「より一層の水防災・大規模地震等に対する」という表現でもよいのではと思います。

次の段落の「一方で、社会全体としては、人口減少時代を見据えて～」の部分ですが、既に人口減少社会に突入しているため、「見据える」という表現はいかなものかと思われます。また、次の文章で「本市が持続できる人口規模を維持

していけるよう」とありますが、これは具体的にどのくらいの規模を想定しているのかが読み取れません。

次の段落の「そうした多くの課題を抱える中ですが、館林では令和元年に館林の「里沼」が日本遺産に認定されました。三つの沼を母胎に持つ館林が、～」という文章では、「館林」という言葉が連続して使われていること、また、市内には近藤沼、蛇沼もあるので、「多くの沼を母胎に持つ」とした方がよろしいかと思えます。次に、「米麦の田園風景に目を潤されながら」という文章ですが、食料増産時代をイメージするような言葉であると感じました。また、「目を潤す」という表現は一般的に使われるものなのか疑問に思いました。

続いて、「郷土に誇りを持ち、地域の課題を共有できる、協働、共創、公民の連携によるまちづくりを進める」という文章ですが、「郷土に誇りを持ち、協働、共創、公民の連携により地域の課題を共有できる」といった方が文章としてつながるのではと思われます。また、公民という言葉はこのままでよいものなのかと感じました。また、「あらゆる面において強靱で持続可能な里沼のまちを目指すことを第六次総合計画の将来都市像といたします」という文章で結んでいますが、「里沼」という言葉は何回か出てきている言葉であるため、「あらゆる面で持続可能な」と改めてもよいのではないのでしょうか。特に、最後の4行については、将来都市像にしては漠然としすぎているような気がします。

- ・私は、館林を子育てのまちにしたいと思っています。里沼のある広い公園を持つ館林は、その条件の一つを満たすものだと考えています。日本遺産シンポジウムで、能舞台をバックに映された映像が東京の雑踏の中で流されたら、心奪われる人も多いのではないのでしょうか。

それから、健康寿命延伸プラットフォームの木村先生が講演した市広報記事の中で、「健康に過ごすためには一人ひとりの意識づけが大切で、自身の食生活を見直して、健康に生きるための食を自分たちで選択することが必要です。」とあります。この言葉は今の日本ではとても大切な言葉であり、同時にそれを達成するための努力も必要です。この情報を共有するためにも、木村先生の講演にあった農薬の使い方と食品添加物を諸外国と比べた時の資料があるのでご確認をいただきたいと思えます。アメリカの医療費が問題となった際、アメリカが世界の健康食を研究したことがあります。その時、日本の食事が世界で一番健康であるとしたマクガバン報告が1977年にありました。今現在、エストロゲンという成長促進剤が使われている牛肉が日本に入ってきています。EUはもちろん輸入禁止

であり、アメリカでもそれを控えようとしている人たちが動いています。また、アメリカで健康障害で5万件以上の訴訟を起こされている除草剤の使われた食品が、私たちの周りで安く売られています。木村先生は、日本は瀬戸際にきていると話をされていました。

日本では、この状況を知りながら、安全な子育てがしたいと思っている母親がいます。日本の食が50年前のように戻ればいいですが、彼女たちは学び続け考え続け、毎日の食事作りをしていかなければなりません。その姿勢を応援し、一緒に考えてくれるまち、そして自然豊かなまちがあれば、住みたいと思ってもらえるのではないのでしょうか。その前に、館林は小児科の医師を探しておかなければならないのですが、ご尽力いただければと思います。

- ・ 今回の基本構想は実現を目指していくものであること、市民がイメージしやすくメッセージ性があるものと事務局から説明がありましたが、私のような館林を知らない市民にもストレートに届いてほしいという思いから見させていただきました。「持続可能」や「強靱」という言葉は、子育てをしている母親たちには通じないと思います。せっかく里沼ということを出しているので、「自然に寄り添い」だとか「自然と共に生きていく」かつ、強靱というところで「自然にも負けない」というように、もう少しかみ砕いた言い方が良いのではと思います。

いただいた資料の中で、過去の館林の基本構想はイメージできましたが、他市と比べるとどうなのかというところがあります。近隣の太田市では「人と自然にやさしく、品格のあるまち太田」、熊谷市では「子どもたちの笑顔があふれるまち熊谷～輝く未来へトライ～」、かすみがうら市では「きらり輝く湖と山笑顔と活気のふれあい都市」、桐生市では「伝統と創造、粋なまち桐生」、甲州市では「豊かな自然歴史と文化に彩られた果樹園交流のまち甲州市」、山梨市では「人、地域、自然が奏でる和のまち山梨市」とあり、参考にさせていただければと思います。

これだけの委員が集まることはないので、例えばインターネットの掲示板のような、事前に委員の意見が確認できるような仕組みをつくっていただきたいと思っています。

- ・ A案が「里沼の息づく持続可能な強靱なまち館林」で、B案が「水と緑と人が輝く共創都市館林」、C案が「水と緑と人が輝くヌマベーションシティたてばやし～強靱で持続可能な里沼のまち～」。なぜC案を作ったかということですが、40年前に初めて将来都市像が掲げられていて、その時に「水と緑の都市宣言」も出して

おり、この「水と緑」という言葉は館林にとって不可欠な表現だと先人は考えていたと思われます。私自身、この言葉は他に替えられないほどピッタリであると感じており、相談した知り合いも同じ意見の人が多かったです。特に、5月の田植えの時期に田んぼに輝く水と、萌えるような新緑の風景がこの地域で見られます。そういう姿を胸に刻んでいる人にとって、「水と緑と人が輝く」という表現は変えがたいものではないでしょうか。

また、ヌマベーションシティについてですが、里沼は安らぎとか伝統志向といった言葉のイメージが含まれ、イノベーションは躍動や活力、未来志向という言葉が含まれていると思われます。つまり、ヌマベーションシティは館林の伝統と革新を表したシビックプライドスローガンというようなものになっているのではないのでしょうか。私なりの解釈ですが、古いものにとどまらないで、新しい館林を未来に向かってイノベートする、クリエイトするというビジョナリー意識宣言を表わせると考えています。

- ・其他のご意見はメール等で事務局へ寄せるということをお願いします。

その他に質問及び意見はありませんでした。

(会議後提出された、委員からの意見)

- ・基本構想案について2点意見、提案があります。1点目は市民にわかりやすい言葉にすべきではないかということ。2点目は第5次総合計画の基本構想との関係をどうするかということです。

1点目に関して3つあります。

①『里沼の息づく』についてですが、里沼が日本遺産に認定されたのは「長い歴史をかけて築いてきた、人と自然の調和した沼辺文化」です。また、館林は文化都市として標榜してきていることから『里沼文化の息づく』としてはどうでしょうか。

②『持続可能で』についてですが、何が『持続可能』なのかわかりません。『可能』ではなく、持続していかなければならないと思うので、これは削除すべきではないかと思えます。

③『強靱な』についてですが、分かりにくく、語調がきついのではないかと思います。『強靱な』を『力強い』とか『強くてしなやかな』としてはどうでしょうか。

次に2点目の第5次総合計画との関係ですが、5次では『水と緑と人が輝く 共創都市たてばやし』としていましたが、解説を見ると、『共働、共創、公民の連携によるまちづくり進めるとともに』と記載があり、『共創』は生きているようですので、『共創』の言葉を入れるべきではないかと思います。

「里沼文化の息づく 共創で 力強いまち 館林」

※又は「力強い」を「強くてしなやかな」

② 基本目的（案）について

事務局より、「基本目的（案）」（資料2）について説明しました。

（委員からの質問・意見）

- ・ご意見につきましては、メール等でお寄せいただきたいと思います。また4月には部会の開催も予定されています。本日の意見はここまでということでご了承いただきたいと思います。

その他に質問及び意見はありませんでした。

(5) その他

① 総合計画策定スケジュール 【PDF：総合計画策定スケジュール】

事務局より「総合計画策定スケジュール」（別紙）について説明しました。

- ・基本目的について、4と5は行政政策と経済の発展ということはかなり近いと思います。これを分けるのもいいですが、うまくリンクさせる必要があると思います。5のところで新たな財源の確保ということですが、これによりどのような政策を打ち出していくのでしょうか。また、公民連携も一言で書かれていますが、これらは経済とも関係してくるので、もう少しうまく捌いていったほうがよいと思われます。

次に、外から見たときの強さや弱さはなかなか分かりにくいと思いますので、これからを担う市の職員であれ、市民団体であれ、比較優位や素晴らしい点を皆でシェアしていく必要があります。普通の組織がこのようなことをやる場合は、過去のレビューやSWOT分析は必ず行います。現状を分析せずに将来のことは考えられないので、単なるピースで議論してまとめていくというレベルでやるのではなく、全体を俯瞰しながら深堀していくということをやりたいと思います。深堀を部会でやるのもいいですが、どこかで横の連絡を取りながら、本当の意味での調整をした方がいいと思います。

最後に、SDGsは、今のところはまだ抽象度が高いですが、そのうち会社の格付けになり、国の格付けにもつながってきます。総合計画は、これからの10年を議論していく非常に重たい話になりますので、これを見据えないと、その後の具体的な政策やプロジェクトの話につながっていかないと思われます。

その他に質問及び意見はありませんでした。

(6) 閉会

2 講演会内容 【PDF：次第（講演会）】

(1) 演題

「地方自治体 未来へのアジェンダ」

(2) 講師

日本社会事業大学学長・東京大学名誉教授 神野直彦 氏